北星学園大学文学部北星論集第59巻第２号（通巻第75号）（2022年３月）・抜刷

【研究ノート】

コント全集　〔下〕

増　田　辰　良

研究ノート

コント全集〔下〕

増田辰良

目次

プロローグ
1．市立病院の赤字問題
2．うそ発見器
3．強盗は庶民の味方です
4．詐欺撲滅
5．大根と妻
6．同級生格差

プロローグ

私がコントを書く理由。それはリズムのある文章を書くための自分なりの習作法の一つです。コント（に限らず、芝居、演劇、漫才、落語、戯曲など）の台詞は必然として話し言葉で書かれます。話す言葉にリズムがなければ、会話は成り立ちません。そう、読み手が読み易い文章を書きたいのです。そして短い台詞の中にモチーフを凝縮させたいのです。

なので、

まじめなことをおもしろく、

おもしろいことをもっともっとおもしろく、

そして、くだらないこともクソまじめに、おもしろく書きたいのです。

1．市立病院の赤字問題

―　ある自治体の会議室。長机には市長と男性事務員一名が座り、対するパイプ椅子には市民五人が座っている。市民は全員、後期高齢者たちである。

事務　（立ち上がり）それでは、市長との意見交換会をはじめます。今回は「慢性的に赤字経営の続く市立病院をどう立て直すか」ということについて忌憚（きたん）のないご意見をいただきたい、と思います。

市民A　（最前列に座り、いきなり興奮気味にしゃべる。手には市の広報誌を持っている）市長さん！　単刀直入に言わせてもらいますが、累積赤字九十億円をど

キーワード：コント、喜（悲）劇、笑い、ユーモア

（一）

う解消するおつもりですか？　この広報誌によると平成二十八年度には不良債務二億六三〇〇万円が計上されていますよね。具体的な方策を、お聞きしたい。

市長　ええーっ（いきなりきたか！という顔で）。その〜、なんですねえ〜。細かい無駄をなくして、出費を切り詰めてですねえ……。

市民A　どう切り詰めるのですか？

市長　（困ったという声で）ええっ。トイレのウンチを流す水量を減らすとか……。

市民A　（キッと睨みつけ）その程度で解消できるのかぁ？

市長　（明るく）じゃあ、オシッコを流す水量も減らしましょう。

市民A　そんな小さなことは放っトイレ（ニッと笑う）、もっと大きな費目を削らないと。

市民E　（手を叩きながら）ようよう、座布団三枚ですなあ。

市民A　（ニコニコ笑い、Vサインをして）ありがとう。

市長　（理解できず、呆然とする。事務員に耳打ちする。事務員は手を左右に振って教えようとしない）

市民E　でも、そんな効き目のない便秘薬みたいなことを言っている場合じゃないでしょ。

市長　（口をはさむ）どういうことでしょうか？

市民E　下らん。

―　市長は、また理解できないという顔で事務員に耳打ちする。事務員は小声でダジャレの種明かしをする。

市長　（ようやく理解し、笑）ハッハッハッ。

（二）

市民B　（話題を戻そうと、さっと手を上げて）内科、外科、産婦人科、耳鼻科など十の診療科がありますが、どこも黒字にはなっていませんよね。医者の給料が高すぎませんか？　また、このうち幾つかの診療科は市内にある病院、クリニック、個人医院などで代替できるでしょ。

市民C　私もその考えに大賛成です。水虫菌の痒痒（かゆかゆ）攻撃に我慢できず、近所のクリニックへ二年も通院していますよ。

市民B　Cさん。あなたも水虫菌の攻撃を受けているのですか？　場所はどこですか？

市民C　はい。足の指です。ここです（靴を脱ぎ足の親指を示す）。

市民B　私は小指です。先週から水虫専門の個人医院へ通ってますよ。（話題を戻すように、咳払いし）んんっ。ですから、すべての診療科を存続させることはないでしょ。

市民C　（Aが持っている広報誌を受け取り）さらに言わせてもらえば、広報誌に出ているデータによると平成二十八年度だけで入院と外来の患者数は合計でおよそ六〇〇〇人も減っていますよね。だから各診療科の患者数の推移を見て、減っている科については廃止をしてもいいでしょ。閑古鳥が啼いている科ばかりじゃないですか。

市長　（両腕を鳥が飛ぶように上下に動かし）鳥がいる？

はっ、はい。早速、調べましょう。

―　事務員はしきりとメモを取る。

市民D　隣接する〇〇市に総合病院が幾つかあるので、この市にいる病人たちは電車賃を使ってでも、そちらの病院へ通院してますよ。わが市立病院の医療技術は市民からは信用されてないってことですかね。……。

市長　わたしも思うのですが、診療科を減らして、空いたスペースを何か老人の憩いの場として利用するとか……。そうだ！　愚痴を言い合う場にするといい。あるいは……孫と爺さん、婆さんとのふれ合いの場にするといい。うん、これがいい！

市民E　（ペットボトルのお茶を二口飲む。ヘラヘラ笑いながら）いいアイディアだと思います。早速、調査し、検討させましょう。

市長　（立ち上がって）市長さん！　あなたの前にある（指をさし）ペットボトルのお茶ですが、それって私たちにはいただけないのですか。

市民A　（手を振り上げ）そうだ、そうだ！　わたしたちは長年税金を納めてきたんだ。

市民B　客にお茶を出さないなんて……、日本文化の恥です。非常識だ。

市民C　（事務員へ耳打ちし）はあ。申し訳ないです。事務手続きに不手際がありまして、また財政上、出費は苦しいことから……、今回はお出しすることができませんでした。

市長　（疑う目と声で）市長のそのペットボトルは自腹ですか？　それとも事務経費で購入したものですか？

事務　（市長へ耳打ちし）はっ、はい。申し訳ありません。事務経費で落としました。

市民D　税金泥棒！　市民ファーストの感覚が微塵もない。

市民A　市長！　この際、自ら責任を取るべきでしょ。どうですか。お答えください。

市長　（呆然として）責任といいますと……。

市民A　もちろん、給料のカットですよ。仕事のわりには給料が高すぎる。累積赤字を放っておいて、なんてこった！

市民B　そのとおり。議員たちに政策立案、実行能力がないのも市の長としての責任だ。昔なら、切腹ものだ。

市民C　（手で腹を撫でながら、ペットボトルを口へ運ぶ）（力強く）わたしも同じ意見だ。給料を五〇％カットすべきだ。その浮いた金を病院の赤字を埋めるために使えばいいでしょ。あるいは孫と年寄りとのふれあいの場を作る費用にあてればいい。簡単なことだあ。アハッハッハッ。

市民A　それだけでは手緩い。全職員の給料、ボーナスもカットすべきだ！

市民B　民間じゃ、当たり前のことですよ。

市民C　病院全体で問題を共有する会議を開いたことはありますか？

（三）

市民B　きっと、そんなこともせずに赤字を垂れ流しているんだ。ふん。

事務　（この声に思わず、顔を強張らせる）

市民A　（キッと睨みつけ）そこの事務員さん、つかぬことをお聞きしますが、あなたどこにお住まいですか？住民票に記載された住所はどこですか？

事務　（ヤバイという顔になり）はっはい。△△市から通勤しております。

市民A　何!!　この市の市民が納めた税金で食わせてもらっているくせに、住民税は△△市に払っているとぉ

（他の参加者たちに目配せする）。

市民B　そんなことだから、この市の財政が逼迫するんだ！

市民A　応募資格には、「採用後、この市内に居住可能な方」とあったでしょ！　こんちくしょう。

市民D　あんたも税金泥棒だ！

事務　はっ、はい（首を垂れる）。

市民C　それにちゃんと勉強をしていますか？

事務　（すーっと、顔を上げ震える声で）どんな勉強でしょうか？

市民C　（そんなことも分からず、採用されたのか、という目で）行政サービスを効率的にするにはどうすればいいのか。住民税を軽減して市民の生活を豊かにするにはどうすればいいのか。どうすれば市民に喜んでもらえるのか。こんなことを勉強するんだよ。

市民A　その前にすぐこの市に転入し、この市へ住民税を納めなさい。それが職員としてやるべき最低限のお務めです。その上で市民ファーストの精神で業務をしなさい。

（四）

市民E　（市長を睨み）市長！　お茶ばかり飲んでいないで何か、回答はないのですかあー。

市長　（ハンカチで額と顎の下に浮いた汗をしきりに拭くばかり）……。

事務　（市長に耳打ちする）

市長　はい。いただいたご意見すべてに善処いたします。

事務　はい（事務員へ耳打ちする）。

市長　（掛け時計に目をやり）それではお時間になりましたので、今日の意見交換会はこれにて閉会いたします。

市民たち　（椅子から立ち上がろうとする）

市長　（いっせいに）市長！　市長！　何も答えていないじゃないかあ！　答えてから退席しろ！　この税金ドロボー！

（しぶしぶ腰を下ろす）

— すると、

市民D　市長!!　これだけはぜひ検討して欲しいことがあります。

市長　（汗を拭きながら）はっ、（まだあるのか、という顔で）何でしょうか。

市民D　市立病院の経営状況を広く市民に知っていただくために、公聴会を開催して欲しいのですよ。

市民E　そりゃあ、いい。実にいいアイディアだ。市長を吊るし上げるまたとないチャンスだあ。

市長　（震える声で）公聴会、ですかぁ？

市民D　そう。まず経営評価委員会を立ち上げ、その委員長には民間の方に就いていただく。

市長　は〜。

市民D　「は〜」じゃない。あんたがしっかり責任を果たさないから、こんな赤字経営になっているんだ。分かっているのか？　市民一人当たり、毎日四〇〇万円の損を出しているんですぞ。

市長　はっ、は〜。

市民D　そして「現状報告　―経営再建への取り組み―」と「意見交換」という公聴会を開催して欲しいのですよ。もちろん、質疑には市長と病院長、事務局部長にも出席していただきます。

市長　質疑ですかぁ（やれやれという顔で事務に目配せする）。

事務　（早口で）では、検討させていただきます。

市長　（慌てて席を立とうとする）

市民E　逃げるのか!!

市民A　（さっと立ち上がり）ちょ、ちょっと待ちなさい！市長さん。これだけは約束してください。次回からは、お茶とお菓子くらいは出していただけるのでしょうなぁ（ニッと笑う）。

市民B　それはいい注文だ。でも俺は血糖値が高いから、お茶だけでいい。できれば、特保（特定保険食品）のカテキンの濃い五右衛門風呂茶にしてくれ。

市民A　どうなんですかあ？　市長。お茶とお菓子！　私は現役で働いていたときには、毎月八万六千円ほどの住民税をこの市に納めてきました。それを今回、一部でいいので取り返したのですよ。お茶とお菓子、お安いもんだ。

市民D　ほ〜。Aさん。ずい分と納めてきたのですなぁ。こりゃあ、役所から表彰状をいただいてもいいんじゃないですか。

市民A　表彰状よりもお茶とお菓子がぁ、ケチケチしないで、自腹で買って持って来て、みんなに配ればいいでしょうがぁ。高給取ってんだから。お安いこったあー。あんたの給料袋は責任の重さと反比例して重い、重いー。

市長　（しどろもどろに）え〜っ、え〜〜、自腹ですかあ〜。自腹は腹が痛いですよ〜。（また、腹を撫でる）

事務　（立ち上がり大きな声で）では、議題は継続審議ということで次回は一週間後の火曜日に、この会を開催いたします。

市民E　（事務員の袖を引っ張り、小声で耳打ちし）君。来週もこの議題なの？

事務　（小声で）しょうがないでしょ。

市民E　何をこそこそしゃべってんだぁ。

事務　え〜。では次回は市長から明確な回答がされますので……、（市長に袖を引っ張られる）開始時刻は十三時です。どなたも時間厳守でお願い致します。

（五）

では、これにて閉会します。

―二回目の意見交換会。長机の上にペットボトルのお茶と茶菓子が置いてある。開始時刻になっても市長だけが現れない。

市民A　（事務員へ）市長はどうされました？　開始時刻をとっくに過ぎてますよ。

事務　はい。申し訳ありません。市長は体調を壊し、午前中、病院へ行っております。もうしばらくお待ちください。

市民B　体調って、どこが悪いのですか？

事務　はい。腹だと聞いておりますが……。

市民B　赤字を解消するために腹もくくれんのに、腹が痛いと？

市民C　高給を取ってるから、美味い物の食い過ぎ飲み過ぎだろ。ふん。

―参加者たちは苛々（いらいら）し始める。ガヤガヤと雑談の音が大きくなり、茶話会の雰囲気になってくる。

市民D　（きょろきょろと首を回し）あれれ、Eさん、来てないですねえ。どうかしましたか？

市民C　Eさんは今日が孫娘の誕生日だそうで、一緒にプレゼントを買いに行くので、参加できないって、連絡がありましたよ。顔を見ないと寂しいですなあ。

市民D　そりゃ孫が優先ですよ。目に入れても痛くない。可愛いですから。じゃ、お茶とお菓子をいただくとしましょう。（菓子盆を手探りし）え～と、カカオ九十五％入りのチョコはないですかぁ。一枚でポリフェノール一七四㎎摂れる……。（煎餅しかなく）あの非常に苦いチョコしか食べないのだが……、ないかぁ。注文しておけばよかったなあ～。

市民B　（事務員を睨み。ペットボトルを取る）わしは血糖値が高いから五右衛門風呂茶にしろと言っておいたのに、これは普通の番茶じゃないかぁ。特売だと六〇円の代物だ。

事務　（天井に目をやり、視線を避ける）

市民A　茶菓子もわざわざ硬い煎餅を用意して……。気の利かないこと、はなはだしい。後期高齢者ファーストの意識が欠けている。久しぶりに羊羹を食べたかったあ～。婆さんに買ってもらえないからなぁ。そうですねぇ。（煎餅を口にして）こりゃあ、硬い。千遍（せんべん）かじっても、噛み切れない。

市民C　ちょっとみなんさん。聞きました～。煎餅と千遍ですって。上手い！

市民B　（笑って）え～ィ（とVサインをする）。

市民D　草加（そうか）～。

市民C　おぉ。ダジャレのオンパレードー。ああ愉快だあ～、今日は楽しいなあ～。

事務　（思わず、笑）ウッウッウッ。

市民C　わたしは入れ歯を取り替えたばかりで、壊れそうだ。また出費になる。年金生活者のことを少しは考えて

事務　もらいたいですなあ（事務員を睨む）。

市民A　（慌てて、顔を伏せる）

こんなものはこうやって（一枚の煎餅を左手の掌に乗せる。それを目がけて右手で空手みたいに）「ターッ」と割って食べればいいの（割れた小片を口へ入れる）。

市民B　（それを真似して、「ターッ」、と割り、口にほおばり）水で柔らかくしてしまえ（ペットボトルを口へ運ぶ）。

市民C　（同じように「ターッ」と割り、口へ入れて、もぐもぐと反芻する）。

市民A　（煎餅を食べ終わると、満足した表情で事務員へ）まだ、来ないのかい？

事務　（腕時計を見てから涼しい顔して）もうしばらくお待ちください。

市民C　（歯に挟まった煎餅の粉を人指し指の先でほじくってから）誰だあ！　時間厳守って言ったのは、もう一時間も待たされている。今日は回答を聞くまで帰らん。（怒）早く帰ると、婆さんに煙たがられる。

事務　（ブルブル震える）

市民D　（ペットボトルを握り締め）われわれはお茶だけを飲みにここへ来たわけじゃない。好物の栗きんとんも用意されてないし……。（怒）市長の回答を訊きに来たんだ。

―　事務員が口を開こうとすると、市長が前屈みになってヘラヘラ笑いながら入ってくる。着席するなり、質問が飛んでくる。

市民B　市長。腹の具合はどうですかぁ？

市長　（嬉しそうに）はい。腕のいい医者に診てもらったので、すっかり良くなりました。ありがたいことです。

市民A　そりゃあ、良かった。市立病院の内科、空いていたでしょ？

市長　いいえ～。胃内科にはとても患者さんが多くて……。

市民たち　……？

市長　自分の診察まで三時間ほど待たされましたぁ。その後、ゆっくりランチを摂ったものですから、ここへ来るのが遅れてしまいまして。（笑）ヘッヘッヘッ。

市民たち　……？

市民A　どちらの病院へ行かれましたか？

市長　（ニコニコ笑い）隣の市にある○○総合病院です。

市民たち　（さっと立ち上がる。市長をポコポコと張り飛ばす）

市民C　そんなことだから、累積赤字が減らないんだ！

市民A、B、D　そうだあ。責任をとれ！　どんな回答を持ってきたんだ！

市長　ええ～っ。そうですねえ～。ええ～っと。

市民D　早く答えなさい。

市長　ええ～っと、ですね（どんな課題をもらっていたっけ、という顔をして）。近隣町村からの患者さんを受け入れることも大事かと……、（早口で）よって～、既存の診療科を減らすわけにはいかないと、こう……。

（七）

市民A　じゃあ、どうやって赤字にメスをいれるのか。解消するのか。訊きたい！

市民B　メスを入れろ！　対策を訊きたい！

市民C　早くメスを入れろ！

市民D　訊くまで帰らん！

市長　（首を傾げ、口の中で）メス、メスを入れる。（ニッと笑い）は〜い。ええ〜っと。いいですか。しっかり聞いてくださいよー。メスには（早口で）赤い血、赤い血、赤い血（あと三回繰り返す）……、（ゆっくり）赤血（字）がつきもので〜す。

市民たちと事務員（いっせいに、椅子から転げ落ちる）

（**付記**。このコントは江別市立病院の赤字問題をヒントに作成した。）

2．うそ発見器

ナレーション　警察官の不祥事（薬物、痴漢、強盗、盗撮）が後を絶たない。そこで「国の治安を守りたい同好会」の会長は考えた。警察官の採用試験時に性格診断テストとして「うそ発見器＝ポリグラフ」による受診を義務付けるべきだと。しかしこれが物議をかもし、国会で審議されることになった。国の治安を守る者として当然、受診させるべきだという意見と人権の保護に抵触するという反対意見が出た。

他方、本当に「うそ発見器」で被験者の性格が正しく診断できるのか、という少数意見もあった。さらなる審議の結果、器械の性能を確かめるために国会議員の中から被験者を選び、受診させることになった。

ところが、議員たちの中には自ら被験者になると手を挙げる者は一人もいなかった。国の代表である首相すら強く固辞した。そこで投票（八）により決めることとなったが、提案者である会長も含めるべきだとの意見が大勢を占めた。選挙の結果、あろうことか、会長が被験者として選ばれた。傍目にも動揺し緊張気味であった会長は言い切った。

「わたしは提案者として文明の利器であるうそ発見器の診断を信じたい」

この勇気ある決断に首相はじめ国会議員たちは惜しみない拍手をおくった。テレビの前の国民も小躍りして称賛の拍手を送った。

登場人物と備品。コントコンビ（けいと&まさと）。けいとは検査官、まさとは会長。黒子一名。張りボテの器械。会長は腕と頭に装置を付け、椅子に座る。検査官は器械の前に座り、その横に大きな箱型をした縦長の目盛り棒が置いてある。その背後に黒子が一人いる。うそ発見器の針は質問内容に動揺すると、つまり嘘をついている可能性が高いときは上へ大きく動く。

検査　（器械のスイッチをONにする。上段に赤色のONが表示される）会長殿。質問内容はアトランダムになっています。「はい」、「いいえ」、のどちらかでお答えください。

会長　了解。（小声で）こんな器械を信用できるかあ。はっ。

検査　では、始めます。子どものころ、よくオネショをして、お尻をペンペンされた。

会長　はい。［針、動かない］

検査　子どものころ、いたずらをして親や学校の先生に叱られたことがある。

会長　はい。［針、動かない］

検査　万引きをすることは良くない。が、する人の気持ちも分からないではないこともない。

会長　ややこしいい言い回しだな。いいえ。［針、動こうとして止まる］

検査　この世の中、金がすべてである。

会長　いいえ。［針、大きく動く］

検査　三番通りにある飯屋のカレーライスは美味い。

会長　なんだ、この質問は。イエス、はい、だぁ。［針、動かない］

検査　カラオケが好きだ。

会長　はい。［針、動かない］

検査　カラオケでは島倉千代子の「この世の花」が十八番だ。

会長　♪赤く咲く花、青い花〜♪

検査　会長殿。歌わなくても結構です。

会長　そっかあ。つい。はい。［針、動かない］

検査　自分はユーモアを解する心を持っている。

会長　はい。［針、動かない］

検査　本当は落語家になりたかった。

会長　はい。［針、動かない］

検査　次のM1グランプリでチャンピョンになりたい。

会長　これ、どんな意図があるんだ。いいえ。［針、大きく動く］

検査　（笑）フッフッフッ。

会長　おい。何、笑ってんの？

検査　だって、（笑）フッフッフッ。

会長　早く質問しなさい。

検査　この検査官の奥さんは美人に決まっている。

会長　知らないよー。あんたの奥さんなんかぁ。いいえ。［針、大きく動く］

検査　カッパエビセン、止められない、止まらない。

会長　何んだってー。はい。［針、動かない］

検査　（笑）ヘッヘッヘッ。

会長　おい。また、笑ってるな。

検査　だってねえ。会長はデブだあ〜。

会長　認めるよ〜。はい。［針、動かない］

検査　（怒った目で睨む）

会長　どうしたんだ。怖そうな目をして、質問は？

検査　このコンビは俺でもっている。

会長　いいえ。思ってないよ〜。［針、大きく動く］

検査　（怒った声で）コンビを解散したい。

（九）

会長　だから、思ってないって〜。いいえ。［針、上段まで動く］

検査　楽屋で相方の煎餅をわずか一枚だけど、盗んで食べた。美味かった。

会長　一枚くらいいいだろ。俺らはコンビだぞ。はい。［針、大きく動く］

（役割を思い出し）おい君いっ！　もっと警察官に関係する質問をしなさい。そのためにおとり捜査、いや、器械の性能を確認しているのだろ？　真面目な質問をしなさい。

検査　愛人が欲しい、欲〜しいの〜〜。

会長　何だ、その声は。いいえ。［針、大きく動く］

なぜ、こんな質問をするのだ。あまりにもプライバシーに反するじゃないか。

検査　あくまでも器械が診断しますから、気軽にお答えください。次の質問へ進みます。最近、いくつかの事務用品を私物として自宅へ持ち帰ろうとした。

会長　いいえ。［針、少し動く］

なんて、失礼な質問なんだ。

検査　それをリサイクルショップへ売ろうと思った。

会長　バカなことを、ふん。いいえ、だあ。［針、少し動いてすぐに戻る］

検査　自分は実力で現在の地位を手に入れた。（大きな声で）コネじゃないー。

会長　はい。［針、少し動いてすぐに戻る］

（一〇）

検査　自分は権力に弱く、傲慢だ。

会長　いいえ。［針、大きく動く］

検査　上司は部下の不祥事の責任を取る必要はない。

会長　いいえ。［針、大きく動く］

検査　奥さんを誰よりも心から愛している。

会長　んんっ。はい、だあ。［針、動きかけて止まる］

検査　銀行強盗をしても捕まらなければいいじゃないかと思ったことがあるようなないような。さあ、どっち。

会長　質問が混乱してるぞ。いいえ。［針、少し動いてすぐに戻る］

検査　この世の中で自分が一番偉い。

会長　いいえ。［針、大きく動く］

検査　部下と飲みに行っても、奢（おご）るのは嫌で、絶対に割り勘にして欲しい。

会長　う〜ん、いいえ。［針、動かない］

検査　今回、被験者に選ばれた瞬間、これはマズイ、と思った。

会長　いいえ。［針、素早く上段まで動く］

検査　可愛い孫娘にはいつもチューをする。
会長　はい！［針、動かない］
検査　その孫娘と一緒にお風呂に入ると天国にいる気分になる。
会長　はい！　孫は可愛いから。フッフッフッ。［針、動かない］
検査　スナックのママさんにもチューをしたい。
会長　誘導尋問かい？　いいえ。［針、大きく動く］
検査　そのママさんとも一緒にお風呂に入って天国を感じたい。
会長　また誘導かぁ。いいえ。［針、大きく動く］
検査　核兵器の廃絶に賛成である。
会長　おぉ。堅すぎる質問だな。はい。［針、動かない］
検査　共謀罪の適用条件はあいまいであると思う。
会長　これも厳しい質問だな。はい。［針、動かない］
検査　阪神タイガースの監督を引き受けてもいい。
会長　はい。［針、動かない］♪六甲おろしに……♪
検査　歌わなくていいですから。税金をちょろまかしたい。
会長　いいえ。［針、大きく動く］
検査　最近まで「警視庁」という漢字の「警」はかるい「軽」と書くと思っていた。
会長　なに！　バカにするなあ！　NO！　いいえ！　だあー。［針、動こうとして止まる］
検査　定年後は天下りを考えているし、すでに確保してある。
会長　いいえ。［針、上段まで一気に動く］
検査　「うそ発見器」は人間の性格を正確に測ることができる。
会長　はい。［針、動かない］
　まだ、質問はあるのか？
検査　次が最後です。こんな提案などするんじゃなかったと後悔している。
会長　いいえ。［針、上段まで一気に動く］
検査　これで検査は終了です。お疲れ様でした。診断結果をお知らせします。
会長　すぐに結果が出るのか？
検査　はい。最新式の器械ですから。
会長　（検査官へ耳打ちして）ちょこっと別室で教えてくれないか？
　（笑）ヘッヘッヘッ。
検査　いいえ。それは不正行為になります。公明正大でなきゃ……。
会長　よし、分かった。イエスだあ。［針、一気に上段まで動く］
検査　（紙切れを見てから）器械はウソをつきませんので、どういう結果であれ、お気を悪くしないでくださいね。（力強く）あくまでも器械の診断ですから。んんっ。大まかに、アバウトに、概して、大雑把に……、言いにくいけど……、言いますと～。

（一一）

それが、実は〜、その〜。

会長　早く言いなさい。

検査　（会釈し）それではお言葉に甘えさせていただいてえー。（一気に）会長殿はある面において平気でウソを隠そうとする性格をお持ちのようです。

会長　（立ち上がり、激怒し）バカにするのもいいかげんにしろ！　なぜ、こんな結果になるんだ。わたしはウソを隠そうしたことはない！［針、大きく動く］

検査　落ち着いてください。ですから器械はウソをつきませんので。

会長　（うな垂れて）君は器械ごときの診断を信じるのかね。しょせん、人間が作ったものじゃないか。わたしは信じない！［針、勢いよく動き上段の枠を壊して飛んでいく］

器械　（倒れる）ガチャン。

会長　（驚き、椅子から転げ落ちる）

検査　あ〜あ。会長殿、スイッチをＯＮにしたままでしたあ〜。あれれ、また診断結果が出ました。（紙切れを見て）会長殿は大ウソつきですー。

黒子　（大きな声で）なお、このコントはフィクションであり、団体、人物等は実在しておりません。

（付記。警視庁のポリグラフ検査案については『朝日新聞』二〇一三年一月八日、火曜日を参照した。）

3．強盗は庶民の味方です

登場人物。爺さんと舞台監督（の二役）、支店長と窓口係（の二役）、強盗、老女性客、老男性客Ａ、老男性客Ｂ、警察官。

（一二）

―　閉店間じかの〇×銀行の店内。住宅ローン担当窓口。爺さんはローン残高証明書を手に窓口係と向き合っている。その他の客は長椅子に座り、順番を待っている。

爺さん　（叱る口調で）銀行はずい分と儲けているそうじゃないか。預金金利はスズメの涙ほどしかない。なぜ、この変動金利をもっと下げてくれんのか？

窓口係　はい。金利はですね。半年ごとに見直しをしていますから。

―　強盗。右手に拳銃、左手にはバッグを持って入ってくる。

強盗　手を上げろ！　静かにしろ！　騒ぐと撃つぞ！

―　（悲鳴）キャー、ウオー。客たちは壁際へと逃げ、うずくまる。

爺さん　（窓口係へ）強盗だ。撃たれるぞ。身を隠せ。

―　爺さん。ローン残高証明書を左手に持ち、壁際へ逃げ、立ったまま様子を見ている。

強盗　（窓口係へ）このバッグに現金を詰めろ！　早くしろ！　おい、支店長はどこだ！

―　窓口係。現金を詰める仕草。

支店長　（震えながら）はっ、はい。わたしが支店長です。

強盗　（銃を突きつけ）よし。両手を上げてこっちへ来い。

―　これ以降、強盗は掴んだ支店長の腕を放さない。

強盗　そこでボ〜っと突っ立てる爺さんも手を上げろ！

―　爺さんはローン残高証明書を左手に持ったまま両手を上げる。強盗はよそ見する。その隙に、爺さんはジャケットの内ポケットへ右手を入れる。

爺さん　（小銭入れを差し出し、強盗へ）おい、お兄さんよう。金なら、これもやるよー。持って行け！

強盗　（笑）おいおい。あんたからは取れないよ。取っちゃいけない。

爺さん　なぜだ。やるよー。　持って行け！　欲しいんだろ。

強盗　（バッグから札束を掴み出す）いいや。爺さん！　俺から小遣いをやるよ。

爺さん　（受け取った札束を強く握り締める）なっ、なぜだ？　金なら、やると言ってるだろ！

強盗　爺さん、無理すんなよ。大事な年金だろ。年寄りの面倒を見るのは若い俺の義務なんだよ。（笑）

―　支店長と他の客たち（音の出ない拍手をする）。

爺さん　じゃあ、このローン残高明細書をやるよ。まだ二年残ってる。持って行けー。

強盗　いらねよー。借金なんか。生きているうちに返済しなよ。残されると……。

爺さん　そうか。（ローン残高証明書と小銭入れをポケットへ入れる）

強盗　証明書は銀行が処理すべきもんだな。（支店長の胸へ銃を向け）どうなんだぁ〜。この処理は？

支店長　ええっ、あの、その、この、でも、だって、ノー、イエス。

強盗　（銃を強く押し付けて）どうなんだ、って訊いてんだろが〜。この野郎！

支店長　（震える声で）はっはい。帳消しにはできませんので、ローン金利を下げるよう善処いたします。

強盗　ほ〜。飲み込みが早いじゃないか。

支店長　はい。（爺さんを指さし、元気よく）わたしの親父も助かります。

強盗　（ずっこける）あんたら親父と息子かい？

爺さんと支店長　（力強く、声を合わせ）はい！

支店長　わたし、長男です。

強盗　よ〜し、いいだろ。（他の客を見廻して）何か銀行へリクエストはないですか。叶えさせてあげますよ〜（笑）。

老女性客　（立ち上がり）そうだわ。銀行は十分に儲けているのだから、預金金利を引き上げてほしいわ。かつて

（一三）

老男性客A　スーパーでも円高還元セールがあったじゃない。

老男性客B　（立ち上がり）最近じゃあ、お客様感謝デーで値下げセールもしている。バブルの崩壊後、潰れそうな銀行は公的資金で助けてもらったことがあるぞ！

老女性客　（前へ一歩出て）あれはわたしたちの税金だったわ。今度は預金者が助けてもらうときよ。

老女性客A　今の預金金利は〇・〇〇一％だから。あ～あ、高金利だった昔が懐かしい。せめて五％に。

爺さんと客たち　（立ち上がり）銀行が独自に金利を設定してもいいのだろ？　今頃、理髪店でもシルバー割引の特典がある。銀行は余るほど儲けてんだから、シルバー上乗せ金利を設定しろ！

強盗　利益を預金者に還元しなさい！

支店長　（腰に手を当て、腕を突き上げて）そうだあ、そうだあー。　預金金利を上げろ！　シルバーを優遇しろ！　シルバーファースト！

強盗　（支店長へ）どうなんだ。噂によれば、使い切れないほど儲けてるそうじゃないか。

支店長　（力強く）はっ、はい！　わたしも預金金利は引き上げるべきだと思います。

強盗　（ドスの利いた声で）素直だな。なぜだぁ？

支店長　はい。使い途のないお金が金庫にほんとたくさん眠っていますし～。（客たちを見回し）ここにいるわたしの叔母さん叔父さんたちも助かります。

強盗　（ずっこける）叔母、叔父ってかぁ？　年寄りを大切するのも銀行の社会貢献だと言いたいのだな。よ～し。この恐怖に耐えて、よく決断したー。立派だ！

（一四）

―　強盗以外の全員（いっせいに拍手）パチパチ。パチパチ。

―　（パトカーの音）ウイーン、ウイーン。

強盗　（ブラインドの端から外を見る仕草）サツが来やがった。ふん。慌てることはない。こっちには人質がいる。

警官　（窓の下で拡声器を口に当て）中にいる強盗！　お前は完全に放屁、放屁されている。逃げることはできない。すぐに人質を解放しなさい。

強盗　（笑、窓に向かって）おーい。ポリさんよ～。

警官　科白（せりふ）、完璧に間違ってるぞー。

強盗　何を言いたいのだ。分かんねえのかあー。放屁（ほうひ）じゃなくて、包囲（ほうい）、ほ・う・い、だろ。

警官　いいんだー、放屁で。

強盗　なぜだ！

警官　お前はぁ～、臭い～、ヤツだ！

―　警官以外の全員（ずっこける）。

強盗　人質を解放して欲しけりゃ、俺の質問に応えろ。

警官　何を訊きたいのだ！

強盗　いいか、よく聞けよー。あんた！　この銀行に対す

警官　る要求はなんだ。なんか、あるだろ！

強盗　（空を見上げ思案し）あっある、あるよ！

警官　じゃあ言ってみろ！

強盗　教育ローンの金利を下げてくれ！　子どもが三人いて、家計は火の車なんだよ～。（泣）

支店長　よ～し。分かった。（支店長の胸へ銃を押し当て）

強盗　どうだ。聞いただろ。教育ローンの金利、どうにかならんかぁ？

支店長　（笑）もちろん、下げさせていただきます。

強盗　ほ～ほ。やけに気前がいいな？

支店長　はい。だって、わたしの弟からの要求ですから。

強盗　（ずっこける）弟ってかい？

支店長　はい！　わたしよりも後から生まれた末っ子です。

強盗　お～い、ポリさんよー。金利を下げてくれることになったぞー。

警官　ありがとうございます。何てお礼を言っていいやら。神様、仏様、強盗様！

―　強盗以外の全員（いっせいに拍手）パチパチ。パチパチ。

強盗　丸く納まったぜ。う～ん。それにしても、おもしろいシチュエーションだ。親父、長男、叔母、叔父、末っ子。血の繋がった（縁のある）連中がここにいるってことだなぁ？

爺さん　そうだ。偶然だあ。

強盗　（訝る声で）偶然にしては、出来すぎている。

支店長　いいえ～。銀行には円（えん）がありますから。

―　強盗、ずっこける。手に持つ水鉄砲を真上に打つ。

舞台監督　よっしゃ。（手を打つ）パーン。リハーサルはこれにて終了。本番の配役は台本どおり、爺さん（わたし）、支店長と窓口係（長男）、強盗（次男）、警察官（三男）で決まり。妹弟たち、ご苦労様でした。本番もよろしく。

4．詐欺撲滅

―　衝立がある。右側の机には男がスマホを手に座っている。左側には机とその上に固定電話機が置いてある。男が電話をかける動作をする。

男　123の456の789、っと。ブルーブルー、ブルーブルー。

老人　（老婆がゆっくり入って来て受話器をとる。耳が遠そうに）もし、もし、山田ですが。

男　（寂しそうな声で）母さん！　オレだけど。（泣き真似をして）クックッ……クッ。

老人　ああ。太郎かい？　どうかしたの？

男　うん。クックッ……クッ。

老人　どうしたの？　太郎。笑ったりして。

男　（ずっこける）違うよ！（小声で）泣いてんだよ～。

老人　どうして？　その理由を二十字以内で述べよ。

（一五）

男　（ずっこける。気を取り直して）母さん。オレさあ、失敗しちゃたよー。

老人　また、おねしょをしたのかい。四十歳になっても、まだ子供だねえ。早くいいお嫁さんを見つけなさい。ホッホッホッ。

男　（ずっこける）違うって！

老人　何が……。太郎。あら、声が変だね。志村けん、みたいになって。

男　（少し大きな声で）「アイ〜ン！　そうです。私が変な小父さんです！」

老人　じゃあ、「加藤ちゃん、ぺ」もやってもらおうかね。

男　（まじめな小声で）違うよー。風邪が治りきってないんだー。それで、クックッ。

老人　何があったんだい？

男　（しめしめという感じで）うん。驚かないでね。オレとつき合っている女の人が妊娠したんだ。クックッ。

老人　あら、今が旬だからねえ。鰊（にしん）を食べ過ぎたのかい？

男　（大げさに、ずっこける）違うって。に・ん・し・ん、したんだよー。赤ん坊ができたんだよー。クックッ。

老人　あら、そんなことがあったのかい？

男　うん。それがさあ。その女の人は人妻なんだぁ。それで、それで、クックッ。

老人　ヒトヅマさんって方かい。いい名前だね。

男　（椅子からずり落ちる）それで、その旦那から手切れ金をよこせ！　って脅されているんだぁ。二百万円を要求されているんだよ〜。母さん、なんとかならない。二百万円。クックッ。

老人　そうだったのかい。お金なら、銀行にたくさんあるから心配しなくていいよ。

（一六）

男　（上手くいきそうだという声で）うん。ありがとう。明日の十一時までに払えば、帳消しにしてくれるんだ。母さん、用意できる。××公園の入口へ持って来てくれる。そこにグレーのスーツを着た旦那が待っているから。その人に渡してほしいんだぁ。

老人　（安心したように）いい話じゃないか。お前に付き合っている女の人がいるなんて。産んでもらいなさい。引き取って、私が育ててあげるから。

男　……？

老人　（嬉しそうに）きっと、お父さんも大喜びするよ。初孫だよ！。

男　（思いっきり受話器を下ろす）ツーッツーッ。クソー婆あめ！（大声で泣く）ウェーン、ウェーン。

5．大根と妻

―　舞台は事務所。机が二つあり、コントコンビ（けいと&まさと）が座っている。

〔　〕の言葉は心の声。

けい　ねえ、君。新婚生活はどうかね。

まさ　〔愉しいに決まってるだろ。訊くなよ〕どうかねって、部長、特別な感想はないですよ。付き合っていた期間は長いし、共働きですから。楽しいのは休みの日に一緒に食事を用意することくらいですかねぇ。

けい　奥さんも働いているんだぁ。

まさ　部長のところは専業主婦ですか。

けい　そうだ。男は外で働き、女は内で旦那を支えるっていう時代だったから。でも好きな女と一緒にいられるってことは、いいことだよ。

まさ　そうですね。お互いに身体や時間を拘束されているときも楽しいと思えますよねえ。

けい　そうか。お互いに縛りあって遊んでいるのか。君たち夫婦は？元気だな。

まさ　〔なにを勘違いしてるんだ〕いいえ。違い、違いますよー。そんな趣味ないですよ。ほんと穏やかですから。

けい　縛って穏やか。そりゃあ良かった。

まさ　〔その解釈、良くないよ〕あれれ。部長、表情が暗いですね。体調が良くないのですか？　それとも～、奥さんと喧嘩でもされましたか？

けい　うん。新婚さんに聞かせる話じゃないけど……。長く専業主婦をしていると、女房、世間ずれしてなくて、こっちが言う冗談を理解してくれないんだなぁ、これがぁ。

まさ　じゃあ、聞くのを止めましょうか。夫婦喧嘩は犬も食わないって……。

けい　食わないじゃなくて、食事を作ってくれないよー。

まさ　〔それじゃあ犬以下だろ〕犬は餌をもらえますけどぉ。やっぱ、聞くのを止めましょう。

けい　そう言わずに……、人生の先輩からの教訓として聞きなさい。三〇年も夫婦をやっているとカビが生えたようで、お互いに色々と見えてくるものがあるんだな、これが。

まさ　〔カビ！〕三〇年ですかぁ。いくら消費期限が長い味噌でも腐っていますよー。

けい　味噌？　腐るかあー。うまい表現だな。面白いもんだ夫婦なんて。（笑）フッフッフッ。

まさ　へ～っ。そうですかぁ。〔味噌も三〇年食べないと白いカビが出てくるってか〕

けい　子どもたちが成人して独立すると夫婦だけになって、我儘というか本性が見えてくるんだな。それで、つい喧嘩になる。腹に蹴りを入れてやりたいと思うときもあるよ。

まさ　へ～っ。〔カビの出た味噌を奪い合いする〕そりゃ喧嘩になりますよね。たとえ、勝ち取ったとしても腹に響くようじゃあいけませんよ。

けい　夫婦喧嘩をすると家計に響くんだあ。

まさ　〔家系じゃなくて、腹だろ。もしかして、死んでしまって家系が途絶えるってことか〕喧嘩はお皿とか花瓶とかを投げて、割ってしまうほうがまだましですよね。

けい　一応、理性はあるから、そんな派手な喧嘩にはならないけど。例えば、水道代が余分にかかる。

まさ　へ～っ。〔腹、壊して医者にかかる医療費じゃなくて〕水道代って、まさか水の掛け合いっこをしているわけじゃないですよねぇ。〔あんたら幼児かぁ〕

けい　幼児じゃあるまいし。うん。風呂なんか、喧嘩中は女房が先に入って、あがるときには湯を抜かれるんだ。腹いせだな。しょうがないから、もう一回、湯を張って入るから、水道代と電気代が余分にかかる。

まさ　なるほど。かかりますねえ～。ある種の水攻撃ですよ。〔でも、腹を壊さなくて良かっただろ〕

けい　それだけじゃあない。食後に食器を洗うのだって女房が先に食

（一七）

べ終わると、さっさっと自分の食器だけ洗うんだ。その後でわたしは自分のものを洗うから、水を節約できない。

まさ 確かに、いっぺんに洗えば節約になりますよね。これもある種の水攻撃ですね。

けい 先週なんかは、もっと大きな出費をしたよ。はあー。

まさ 溜息なんかついて。根が深そうですね。

けい そう。わたしは野菜を育てるのが好きで、この季節だと大根が旬だよね。

まさ 〔不思議そうに、大根？　ゴボウと違って、根は浅いよ〕大根、いいですねぇ。下ろしても、煮付けても、オデンなんか最高ですよね。

けい そうだろ。先日も、畑の大根が大きくなっていたので、「抜くから」って言ったんだ。そうしたら、嫌そうな顔で、「う〜ん」と言ってから、スマホを操作しているんだな。

まさ スマホ、ですかあ？〔市場へ卸しにでも行くと連絡したのか〕

けい 立派な大根を二本洗って、台所へ持って入って「きれいな立派な大根だろ。誰かの御足（おみあし）と同じだあ〜」って、冗談を言ってみたんだ。すると、怖い顔して、冷蔵庫の野菜庫を開けて、嫌味っぽく、「まだ、大きいのや小さいのがこんなにある！」って、言い返されたよ。

まさ 奥さん、瑞々（みずみず）しい白い大根に嫉妬したのかな。それとも食べきれないと思ったのですかねぇ。

けい うん。わたしは「大小の問題じゃない。余るようであれば、隣の町内に住んでいる姉さんにあげればいいだろ」って提案したんだ。そのとき女房は怒った声で言い切ったね。

「さっき、届けるってメールを送りました」

（一八）

それでも、わたしはなだめようと、ナマスにしてくれ。俺が責任をもって食べる、と伝えた。そのとき、女房は何て言ったと思う。

まさ できません！　絶対にできません！〔舐めても大根はナマズにはなりませんよ！〕ですか。

けい ブー。はずれ！

まさ じゃあ、毎回、食事を準備している奥さんだから……、「こんなにあるのに毎回じゃあ、飽きるでしょ」ですか。

けい ピンポーンだよ。でもわたしは、

「調理方法を変えればいいだろ。ナマス、スティック、オデン、煮物と色々作れるだろ？」って言った。女房はムッとして、流しに置いた大根をじっと見ていたけどね。

まさ 〔舐めずに流しで大根をナマズにどう育てようかと〕きっと悩んだのですかね。〔ナマズになれない大根にとっても〕気まずい雰囲気ですねぇ。

けい そう。仕方なくわたしはソファに座り新聞を捲りながら、蘊蓄（うんちく）を傾けたんだ。

まさ ええっ。ソファで、ですか？〔新聞にウンチをかけたあ〜。いつもどんな格好しているんですか〕

けい そう、いつもソファだ。「大根はどんな物と一緒に食べても中（あた）らないんだ。それ、芝居の当たらない下手な俳優のことを、大根役者っていうだろ。あれのことだ。意外とビタミンCも多く含まれているし、ピリッとして美味い」ついでに、ハッハッハッと笑ったんだ。これがいけなかったのかもしれない。

まさ 笑ってる場合じゃないでしょ。〔ウンチをなんとかしてくださいよー〕

けい　今から思えば、そうだったな。女房は怖い顔をしたまま、無言で大小の大根を袋に詰め、車のキーを持って、「姉のところへ届けてくるから」って部屋を出て行った。

まさ　〔ウンチを残したままで〕その状況で、よく行けますねぇ。

けい　車で三分くらいだからね。「やれやれ、大根のように脹(ふく)れられてもなあ〜」とつい愚痴が出たよ。しばらくすると車の発車するエンジン音、続いてガチャガチャという大きな音がした。

まさ　ガチャガチャって、まさか？〔ウンチを思い出して、ドアを乱暴に開け閉めして〕帰ってきた。

けい　そう。女房が泣きそうな顔をして、リビングへ戻ってきた。手には袋を提げて。

まさ　そりゃ事後処理は嫌でしょ。〔自分のじゃなく、部長のウンチですから〕

けい　「車の左前のバンパーをブロック塀に擦(こ)すちゃった」ってさ。

まさ　ええーっ。バンパーをですか。〔摺(す)るのは大根だろ。どうやってバンパー摺ったんだ。そんな大きな摺り器はない〕

けい　わたしは、「その主役の大根、高い代償を払うことになるなあ〜」と言って慰めた。すると女房は申し訳なさそうに、「まだ、運転が未熟なの」と言うから、仕方なく、わたしはニッコと笑って、「それじゃあ、お前も大根だな」と言い返してやった。

まさ　ええーっ。部長、笑えないでしょ。〔奥さんは大根だったかぁ〕どんな夫婦ですかあー。

けい　すると気持ちが楽になったのか、女房のヤツ「いいえ主役じゃなくて、どうせわたしは添え物ですから」って、返してきたよ。

まさ　なあ〜んだぁ、奥さん、刺し身の妻だったのですかあー。

6．同級生格差

―　道路に横断歩道のマークがある。その手前で、自転車に乗った男と、その後ろに警察官が立っている。前方に立ててある信号機が青に変ると同時に（？）、男は自転車を車道にこぎ出した。その背後から、警察官が声をかける。

警　ピーピー、ピーピー。そこの自転車、止まりなさい、とね。

―　男は自転車を降りて、戻ってくる。

男　（平気な声で）はい。止まりました、とです。

警　（威厳をもって）信号が変る前に道路へ出てはいけないでしょ、とね。

男　いいえ。青に変ってから出ました、とです。

警　いやいや。後ろから見てましたけで、〇・〇〇一秒のフライング、とね。（薄笑いを浮かべて）〇・〇〇一秒たりとも、ルールは守ってもらわないと、とね。（あっちこっちと防犯登録証を探すが、見つからない）この自転車はあなたのものでしょうな？　とね。

男　「ものでしょうな？」私を泥棒みたいに呼んで……、名誉毀損で、あなたを警察へ連行しますよ、とです。

警　（笑）ヘッヘッヘッ。それはこっちの台詞です、とね。（手帳とボールペンを出して）あなたの住所を教えてください、とね。（いいかげんに）野幌市札幌区上園町小麻１２３の４５６７、とです。（警察官の手帳を覗き込みながら）下手糞な文字、それに

（一九）

みんな平仮名、とです。

警　（肩で男を小突き）構わないでください、とね。あなた、年齢は？　とね。

男　十年（とうねん）とって、二十八歳、とです。

警　その割には若く見えますな、とね。

男　冗談、とです。実は当年とって、三十八歳、とです。

警　嘘を言ってはいけない、とね。嘘は自転車泥棒の始まり、とね。偽証罪になる、とね。（手帳に書き込む仕草）

男　また泥棒と呼んだ、とです。ますます逮捕したい気分になってきた、とです。ところで、あなたのお年は？　とです。

警　（恥ずかしそうに）実は私も当年とって三十八歳です、とね。

男　（怒ったように）答えに独創性がない、とです。私の年をカンニングしては駄目、とです。

警　そんなことは関係ない、とね。あぁ。訊き忘れていました、とね。あなたの名前を教えてください、とね。

男　名乗るほどの大物じゃあ、ない、とです。

警　（手帳に書き込む仕草）ますます怪しい、とね。

男　（何か重要なことを思い出したように）あーあ。その「とね」という語尾、ひょっとしてあなたはTさんでしょ、とです。学生時代、同級生だったTだ、Tだろ？　とです。

警　そういうおたくの「とです」という語尾も……、あなた、ひょっとしなくてもM、Mでしょ、とね。

―　二人は強く抱き合う。男の自転車はガチャンと倒れる。

男　お久しぶり、とです。

（二〇）

警　ほんと、懐かしい、とね。

男　お前、警察官をしているのかぁ、とです。あのカンニングばかりしていたお前がよく採用試験に受かったなあ、とです。

警　五回の挑戦でみごとに合格した、とね。（話題がズレたことに気づき）それはそうと、信号無視はいけない、とね。

男　お父ちゃん、お母ちゃん、ついでに女房にも誓って違反はしていない、とです。これくらいは許してくれよ、とです。

警　そこは神仏に誓ってと言う、とね。許せない、とね。自転車での「危険行為（信号無視、一時不停止、ブレーキ不良）」のうち、信号無視が一番多く、全体の約四十三％を占めている、とね。

男　ずい分と詳しい説明を〜、とです。

警　まだある、とね（内ポケットから『わかる　身につく交通教本』を出して、読む）自転車での信号無視は二回以上摘発されると、公安委員会の命令を受けてから三カ月以内に指定された期間内に有料の講習を受けなければならない、とね。これに従わないと五万円以下の罰金が科せられる、とね。

男　初犯のようだから、見逃してくれ、とです。

警　いい〜や。……ようだはない、とね。立派な法令違反、とね。

男　（得意気に）じゃあ、学生時代のカンニング事件をばらしちゃおかぁなあー、とです。

警　それは困る、とね。就職が遅れ二カ月後に、ようやく巡査長へ昇進する、とね。俺にも都合があって、もう一件、交通違反を揚げると、昇進に華を添えることができる、とね。

男　（ニタニタ笑い）けち臭いことを言うな、とです。そんなんじゃ華にならない、とです。

警　なぜ、ド素人のお前に分かるの？　とね。

男　俺も、そのコースを辿ってきた、とです。（上着の内ポケットから身分証を出して、かざす）

警　（驚いた顔で）何んだぁ、私服だから……、これは失礼した、とね。同業者だった、とね。非番、とね。

男　そう、非凡だから採用試験は一発で受かった、とです。今は、警視庁で主任刑事をしている、とです。

警　（素早く、直立不動の姿勢で敬礼をする）

―　それを見て、

男　○・○○一秒のフライング！

（**付記。**普通自動車運転免許証の更新時に配布された『わかる　身につく交通教本』および『朝日新聞』、二〇一六年六月二日を参照した。）